

(案)

平成30年度

岡山県献血推進計画

(岡山県献血推進アクションプラン)

～岡山県献血推進計画の実施のために～

岡山県

平成30年度岡山県献血推進アクションプラン

基本的事項

○平成30年度岡山県献血推進計画に基づき、実際に行う事業（アクションプラン）を項目ごとに太枠内に定めた。

なお、本文は平成30年度岡山県献血推進計画である。

前文

本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第4項の規定に基づき定める平成30年度の岡山県における献血の推進に関する計画である。

第1節 平成30年度に献血により確保すべき血液の目標量

平成30年度に全血献血により20,958L（21,776L）、血小板成分献血により5,229L（5,222L）、血漿成分献血により5,267L（3,481L）の計31,454L（30,479L）の血液を確保するため、75,326人（75,774人）に献血に協力いただく必要がある。

※ 原料血漿確保目標量（岡山県）16,599L（14,557L）を含む

[献血目標]

場 所	全 血 献 血		成分献血	合 計
	200m L 献血	400m L 献血		
献血ルームうらら (血液センター)	300人 (480人)	4,440人 (4,410人)	9,459人 (8,515人)	14,199人 (13,405人)
献血ルーム ももたろう	636人 (871人)	9,050人 (9,050人)	12,744人 (11,793人)	22,430人 (21,714人)
移動献血車	520人 (700人)	38,177人 (39,955人)	—	38,697人 (40,655人)
合 計	1,456人 (2,051人)	51,667人 (53,415人)	22,203人 (20,308人)	75,326人 (75,774人)

※400m L 献血の全血献血に占める割合97.3% (96.3%)

() は平成29年度計画の数値

第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

県内で必要とされる輸血用血液製剤と血漿分画製剤用原料血漿の確保目標量を県民の善意の献血で確保するため、岡山県献血推進協議会（30機関・団体）を中心に、関係機関、団体等の連携をより一層緊密にし、県、市町村及び岡山県赤十字血液センターが一体となって、積極的かつ効果的な献血運動の展開に努める。

県、保健所及び岡山県赤十字血液センターは、定期献血場所の周知や市町村などでの各種イベント等の把握に努め、移動献血車の効率的な運用を図る。

また、血液製剤の国内自給や安全性向上のため、成分献血及び400m L 献血の推進を図る。さらに、医療需要の高い400m L 献血及び成分献血の推進及び普及を図る。

1 献血に関する普及啓発活動の実施

(1) 献血推進強化事業

①平成30年度「岡山県愛の血液助け合い運動」の実施

夏場の医療に必要とする血液製剤を県民の献血により確保することを目的に、7月から8月までの2か月間を「岡山県愛の血液助け合い運動」月間とし、岡山県献血推進協議会を中心に、関係機関、団体の協力を得て、オープニング行事等各種の事業を展開する。

本年度は、月間中に「第54回献血運動推進全国大会」を本県において開催し、献血運動の推進に功労のあった団体及び個人に対し、県知事感謝状等の贈呈を行うとともに献血思想の普及啓発事業を行う。

アクションプラン

○「岡山県愛の血液助け合い運動」月間の行事

1 普及啓発活動（主体：岡山県献血推進協議会）

内容：①テレビ、ラジオ、新聞、各種広報誌等の活用

②岡山県献血推進協議会長メッセージ及び啓発資材を各保健所、市町村、岡山県赤十字血液センター等から事業所、学校等に伝達、配布

③保健所、市町村、後援団体でのポスター掲示

時期：月間中

（参考）平成29年度実績：

・オープニング行事：表町商店街（上之町～中之町～下之町）をパレード 蓮昌寺保育園鼓隊、岡山シーガルズ選手等約120名が参加

・広報活動：ポスター 400部
啓発用クリアファイル 3,000枚

2 「第54回献血運動推進全国大会」の開催

（主体：厚生労働省、日本赤十字社、岡山県）

内容：長年にわたって献血推進活動に功労のあった団体等への感謝状等贈呈式及びアトラクションの開催

時期：平成30年7月12日

参加者：都道府県、日本赤十字社、県内市町村関係者、献血功労者、学生等

（参考）平成29年度実績：表彰状及び感謝状贈呈団体等46団体、26名

「献血感謝のつどい」は台風接近により中止。

②「はたちの献血」キャンペーンの実施

新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心に、冬期における献血者を確保することを目的に、1月から2月までの2か月間を「はたちの献血」キャンペーン月間とし、広く県民各層に対し献血思想の普及を図る。

アクションプラン

○「はたちの献血」キャンペーン中の行事

1 「はたちの献血」キャンペーンオープニングイベント

内容：①岡山県赤十字血液センター一日所長委嘱式

②献血協力団体への訪問及び岡山県献血推進協議会長メッセージを岡山県学生献血推進連盟加盟校へ配布するなど、献血思想の普及を図る。

主体：岡山県、日本赤十字社岡山県支部、岡山県赤十字血液センター

協力：岡山県学生献血推進連盟

時期：平成31年1月上旬

2 広報活動

内容：①テレビ、ラジオ、新聞、各種広報誌等の活用

②保健所、市町村、後援団体でのポスター掲示

時期：月間中

3 記念品のプレゼント

内容：献血された新成人の方に記念品をプレゼント

時期：月間中

(2) 広報活動

①献血推進キャラクター等の活用

献血推進キャラクター「けんけつちゃん」及び献血イメージアップ標語等を効果的に活用し、献血思想の普及・啓発に努める。

アクションプラン

○普及啓発資材の作成及び配布

内容：普及啓発資材等を作成し、県民に配布し、啓発に努める。

主体：岡山県献血推進協議会

時期：年間

配布方法：岡山県青年団協議会、岡山県学生献血推進連盟、岡山県愛育委員連合会、岡山県婦人協議会等、岡山県献血推進協議会加盟団体を通じて県民各層及び献血者に配布

○献血推進キャラクター等の活用

県及び血液センターのホームページ等において、献血推進キャラクター（「けんけつちゃん」）及び献血イメージアップ標語（「光ってる 献血すませた君の顔」）等を活用した献血の普及・定着等の啓発に努める。

②各種広報媒体の活用

県政テレビ・ラジオ番組、新聞、県広報紙、インターネットホームページ、市町村広報誌等を効果的に活用して、広く県民に対する献血思想の普及啓発に努めるとともに、採血基準の改正を引き続き周知する。

アクションプラン

○各種広報媒体の活用

①テレビ、ラジオ、新聞

②県広報紙

③インターネットホームページ

(岡山県、岡山県赤十字血液センター 等)

④市町村広報誌等

主体：①報道機関 ②岡山県 ③岡山県、岡山県赤十字血液センター 等

④市町村

内容：あらゆる機会をとらえての積極的な広報活動

(3) 献血推進組織の育成等

①保健所献血推進連絡会議等の開催

保健所献血推進連絡会議等を計画的に開催し、管内市町村の献血事業に対する取り組みの一層の活性化を図る。

アクションプラン

○保健所献血推進連絡会議の開催

内容：①献血知識の習得

②献血推進計画に係る当該地域における円滑な実施のための移動献血車の効率的な運用等の協議

主体：保健所

時期：年間

参加者：保健所、市町村

②地域及び職域組織並びに献血推進協議会の活用

保健所、市町村は、岡山県赤十字血液センターの協力を得て、地区組織、献血協力団体、主な企業等の責任者との連携を密にし、「地域ぐるみ」、「職域ぐるみ」の献血の推進を図るとともに、新たな献血協力企業及び団体等の掘り起こしに努める。

この場合において、市町村は、地域の実情に応じ献血推進協議会等を開催し、献血事業に対する取り組みの一層の活性化に努める。

なお、献血推進協議会等を未設置の市町村にあつては、献血事業に対する取り組みの一層の活性化を図るため、その設置に努める。

アクションプラン

○既存の献血協力企業等との連携

内容：岡山県愛育委員連合会等地区組織、ライオンズクラブ等献血協力団体、主な企業等との連携強化

①献血会場の確保

②定期的な移動献血車の受入れ

③広報等を活用した献血の事前お知らせ等献血協力者の確保 等

主体：保健所、市町村、岡山県赤十字血液センター

時期：年間

○新たな献血協力企業等への呼びかけ

内容：訪問、インターネットホームページ（岡山県赤十字血液センター）による呼びかけや献血サポーター増加活動等による新たな献血協力企業及び団体等の掘り起こし

主体：保健所、市町村、岡山県赤十字血液センター

時期：年間

③各種ボランティア

従来から積極的に活動している岡山県愛育委員連合会、ライオンズクラブ、岡山県青年赤十字奉仕団連絡協議会（SRC）、青少年赤十字（JRC）、県高等学校PTA連合会等並びに一般ボランティアとの連携に努め、女性層や若年層への献血の拡大を図る。

アクションプラン

○献血協力団体との交流会の実施

内容：岡山県愛育委員連合会、岡山県商工会青年部、ライオンズクラブ国際協会336-B地区キャビネット等との交流会を開催し、事例発表や意見交換等を行うことにより更なる連携の強化を図る。

主体：岡山県赤十字血液センター

時期：年間

○各種ボランティアとの連携及び研修会の開催

内容：岡山県愛育委員連合会、岡山県青年赤十字奉仕団連絡協議会（SRC）、青少年赤十字（JRC）、岡山県高等学校PTA連合会、岡山県青年団協議会等との連携及び研修の実施

①献血会場の確保

②呼びかけ等による献血協力者の確保

③献血者への接遇補助

④献血知識習得を目的とする研修イベントの実施

主体：各種ボランティア団体

時期：年間

④献血推進組織への支援

県内の専門学校・短大・大学等の学生有志で組織している岡山県学生献血推進連盟“S. B. D. M o m o”の活動等を支援する。

アクションプラン

○岡山県学生献血推進連盟等の活動の支援

内容：啓発資材等の提供

主体：岡山県献血推進協議会

時期：年間

(参考) 平成29年度実績：クリアファイル 1, 300枚

けんけつちゃんカチューシャ 1, 000枚

○岡山県学生献血推進連盟の組織強化

内容：構成員の増員及び新規加入校の勧誘

①インターネットホームページ、Facebook・Twitter(岡山県学生献血推進連盟)等による活動内容の紹介

②各校ボランティア組織等への訪問による勧誘

主体：岡山県学生献血推進連盟、岡山県赤十字血液センター、岡山県

時期：年間

(参考) 平成29年度実績：①Facebook投稿 8回

Twitter投稿 190回

②勧誘活動 2回

(4) 若年層献血促進事業

若年層に対する献血推進は、将来の献血基盤の確保という観点から非常に重要であることから、若年層に対しては、学校と連携して「献血セミナー(赤十字出前講座)」を実施する等周知啓発の取組を積極的に行う。

特に高校生等の初回献血時には、200mL全血献血を推進する等、できる限り献血を経験してもらうことが重要である。

①小学生親子への血液等知識の普及啓発

岡山県赤十字血液センターは小学生親子を対象に血液や献血についての話を聞く「小学生親子血液センター見学体験教室」等を開催し、知識の普及を図る。

アクションプラン

○「夏休み小学生親子血液センター見学体験教室」の開催

内容：①献血・血液についての話

②施設・移動献血車・献血運搬車の見学

③献血や血液に関するクイズによる親と子の献血知識の普及

時期：平成30年7月、8月

主体：岡山県赤十字血液センター

参加者：小学校5、6年生及び保護者

(参考) 平成29年度実績：573人(120校)

○「キッズ献血」の開催

内容：模擬献血体験を通して献血可能年齢に満たない子どもたちに、献血の手順やその重要性についての理解を深めてもらう。

時期：年間

主体：岡山県学生献血推進連盟、岡山県赤十字血液センター

(参考) 平成29年度実績：5カ所(延べ5日)※予定も含む

②中学生への献血知識の普及啓発

岡山県赤十字血液センターは中学生を対象に「血液センター職場体験」を開催し、血液や献血について関心を持ってもらう。

アクションプラン

○「血液センター職場体験」の開催

- 内容：①献血・血液についての話
②施設・移動献血車・献血運搬車の見学
③献血セミナーDVD視聴による献血知識の普及
④血液センターお仕事体験

時期：年間

主体：岡山県赤十字血液センター

参加者：中学生

(参考)平成29年度実績：6校(延べ18日)

③高校生への献血知識の普及啓発

岡山県教育委員会及び岡山県赤十字血液センターの協力を得て、高校生を対象に「献血パンフレット」を作成し、正しい献血知識の普及啓発と献血思想の醸成に努める。また、高校卒業生を対象に、献血への協力を依頼する啓発チラシを配布する。

また、岡山県赤十字血液センターは、岡山県教育委員会及び日本赤十字社岡山県支部の協力を得て、高校生に対する赤十字事業の理解及び実践並びに献血等ボランティア思想の普及啓発を目的に「献血セミナー(赤十字出前講座)」等を実施する。

アクションプラン

○献血パンフレット「熱血・献血宣言」の作成・配布

内容：献血の実施が可能となる16歳を迎えた高校2年生に対して、献血に対する正しい知識を身に付け、献血への関心を高める。

主体：岡山県、岡山県教育委員会

時期：平成30年4月配布

(参考)平成29年度実績：24,000部

○啓発チラシの「献血にご協力を！」の作成・配布

内容：高校卒業生に対して、献血への協力を呼び掛ける。

主体：岡山県、岡山県教育委員会、岡山県赤十字血液センター

時期：平成31年2月～3月

(参考)平成29年度実績：18,700部

○「献血セミナー(赤十字出前講座)」の実施

内容：県下各高校へ出向き、高校生を対象に献血知識の普及に努める。

主体：岡山県赤十字血液センター、日本赤十字社岡山県支部、岡山県教育委員会

時期：年間

(参考)平成29年度実績：20校

○献血イベントへの高校生等の参加

内容：献血イベント開催時に、中高校生の参加を呼びかけ、献血への理解を促進するとともに、献血への意識付けを行う。

主体：岡山県、岡山県赤十字血液センター、岡山県教育委員会

時期：年間

（参考）平成29年度実績：山陽女子高等学校

○高校献血の実施

内容：高校献血については、献血の意義について理解を促進するとともに、将来にわたる献血者確保の意味からも、献血を経験してもらう観点から高校と連携して実施する。

主体：岡山県、岡山県教育委員会、岡山県赤十字血液センター

時期：年間

（参考）平成29年度実績：公立 4校 私立 10校

○「Let's Try MOGI献血」の開催

内容：血液センターが持っている献血の知識・技術・資材を活かし、高校学園祭で模擬（MOGI）献血を展開し、献血の啓発を行う。

主体：岡山県赤十字血液センター、岡山県学生献血推進連盟

時期：平成30年10～12月（学園祭の時期）

（参考）平成29年度実績：2カ所（延べ2日）

④大学生等若年層への普及啓発

若年層の献血を強く推進するため、岡山県学生献血推進連盟等の協力を得て大学・専門学校等の学生を中心とした若年層に対して、若い世代から若い世代への普及啓発を主眼として、積極的に実施する。

また、この岡山県学生献血推進連盟が中心となって実施する「晴れの国献血」、「クリスマス献血」等のキャンペーン活動を支援する。

アクションプラン

○「晴れの国献血キャンペーン」、「クリスマス献血キャンペーン」等の実施

内容：①岡山県学生献血推進連盟が行う各種キャンペーンに使用する啓発資材等の援助

②着ぐるみ、衣装、飾り付け等により季節感のあるイベントの実施

③啓発資材を用いた献血への協力の呼びかけ

主体：①岡山県献血推進協議会 ②③岡山県学生献血推進連盟

時期：①平成30年4月 ②平成30年12月 ③年間

⑤若年層への献血啓発活動

今後、輸血用血液を必要とする高齢者の割合が増える一方、献血できる方が年々減少している中、より多くの献血者、特に10代～30代の若年層の方の献血への理解と協力が必要である。

このため、若年層の献血に対する普及啓発を図ることを目的とした献血啓発ポスターコンテストやファミリー献血を行い、献血の推進に努める。

アクションプラン

○「ももたろう献血ポスターコンテスト」の実施

内容：県内の中学校、高等学校、特別支援学校、専門学校、大学及び一般の方から新鮮なアイデアを取り入れた献血啓発ポスターを募集する。

主体：岡山県赤十字血液センター

後援：岡山県、岡山県教育委員会

協力：岡山県美術家協会

(参考)平成29年度実績：350点(350名)

○ファミリー献血の推進

内容：輸血用血液全体の約1%が妊娠・分娩に使われている現状から、妊娠・出産される方のご家族に対し、輸血の必要な人に贈っていただくための献血を推進する。

主に20代・30代の子育て世代の方々に、妊娠・出産を機に、献血に対する意識の向上を図るとともに、積極的に周知活動を促進する。

主体：岡山県赤十字血液センター、岡山県医師会産婦人科部会、岡山県産婦人科医会

(参考)平成29年度実績：239人(1月末現在)

【平成29年度実施のその他の事業実績】

○「第54回献血運動推進全国大会『標語』コンクール」の実施

内容：献血運動推進全国大会に向けて、県民の開催機運を高めるとともに、献血についての普及啓発等を図るため、将来の献血の担い手となる若者から、献血に関する「標語」を募集した。

主体：岡山県、日本赤十字社岡山県支部、岡山県赤十字血液センター、第54回献血運動推進全国大会実行委員会

後援：岡山県教育委員会

応募総数：840作品(482名)

(5) 効果的な普及啓発等の実施

岡山県赤十字血液センター等の関係機関と連携し、効果的な普及啓発を実施するとともに、初回献血者等が抱えている不安等の払拭に努める。

アクションプラン

○効果的な普及啓発の実施

内容：①採血手順や採血後の過ごし方等について映像やリーフレットを活用した事前説明の強化

②各種キャンペーン期間中の効果的なCM

主体：①岡山県赤十字血液センター、②岡山県、岡山県赤十字血液センター

(6) 血色素量不足等により献血できなかった方への対応

血色素量不足等により献血できなかった方に対しては、小冊子を活用し、看

護師が栄養指導等を行う。

アクションプラン

○栄養指導等の実施

内容：血色素量不足等により献血できなかつた方に対して、看護師から小冊子「なるほど」（日本赤十字社作成）を活用し、栄養指導等を行う。

主体：岡山県赤十字血液センター

時期：随時

(7) 複数回献血の推進

血液製剤の安定供給及び安全性向上の観点から重要な複数回献血者を確保するため、岡山県赤十字血液センターに組織されている「複数回献血クラブ『ももたろうEメールクラブ』」や複数回献血者に対する各種サービスの提供に協力し、複数回献血の推進に努める。

アクションプラン

○複数回献血クラブの組織強化

内容：①献血会場におけるリーフレット配布及び呼びかけによる複数回献血クラブ『ももたろうEメールクラブ』会員の勧誘の推進

特に、大学生・専門学校生等の若年層を中心に勧誘

②複数回献血者へのEメールによる情報配信 等

主体：岡山県赤十字血液センター、岡山県

時期：年間

○県庁職員献血の実施

実施場所：県庁9階大会議室

主体：岡山県、岡山県赤十字血液センター

時期：特に献血者が不足する5月、8月、1月

○平日の血小板成分献血の予約制の実施

主体：岡山県赤十字血液センター

○献血者への各種サービスの実施

主体：岡山県赤十字血液センター

（参考）平成29年度実績：以下のとおり

■ハーゲンダッツアイスプレゼントの実施

献血ルームうらら（血液センター）

実施日：木・金曜日13:00～17:00

■鉢花プレゼントデーの実施

献血ルームももたろう

実施日：水曜日14:00～

■各種占い・リラクゼーションの実施

献血ルームうらら（血液センター）

献血ルームももたろう

2 献血受け入れ体制の整備

「献血ルームももたろう」及び「献血ルームうらら（血液センター）」の場所や受付時間の周知に努めるとともに、ゆったりとした明るいイメージの若い世代にも

利用しやすい施設となるよう整備を進める。

アクションプラン

○献血場所の周知及び献血の実施にあたり快適で親しみやすい雰囲気づくりの実施

内容：①献血ルームうらら（血液センター）の周知

「献血ルームうらら（血液センター）2周年記念イベント」の実施

②献血ルームももたろうの周知

「献血ルームももたろう10.10開設イベント」の実施

③献血者に喜ばれる献血処遇品の選定

主体：岡山県赤十字血液センター

第3節 その他献血の推進に関する重要事項

1 血液製剤の安全性確保対策

血液製剤の安全性の確保向上のため、岡山県赤十字血液センターでは、献血時の本人確認や問診の強化を図る。

特に、HIV等の感染症の検査を目的とした献血が行われぬよう周知徹底を図る。

また、医療機関における血液製剤に関する使用記録等の保管・管理の励行についても引き続き徹底を図る。

アクションプラン

○血液製剤の安全性確保対策

内容：①感染症の検査を目的とした献血の防止

②医療機関における血液製剤に関する使用記録と輸血前後の感染症検査等の励行

主体：①岡山県赤十字血液センター、②医療機関

時期：年間

○特殊製剤国内自給向上対策事業（厚生労働省公募事業）

「B型肝炎ワクチン追加接種プログラム」

内容：B型肝炎の感染予防に必要な「抗HBs人免疫グロブリン製剤」を国内自給するため、B型肝炎ワクチンの接種により抗体陽性の方に、ワクチン追加接種により抗体価が上がった後の献血を推進する。

主体：日本赤十字社（受託事業）

2 血液製剤の使用適正化普及事業

血液製剤は有限な資源でもある献血血液から作られており、しかも全て国内自給でまかなうためには、より一層医療機関における使用の適正化が必要である。

このため、岡山県合同輸血療法委員会を中心に、「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」等について、関係者の協力を得て、医療機関への周知徹底に引き続き努力する。

アクションプラン

○血液製剤の使用適正化の普及

- 内容：①医療機関における使用の適正化
②岡山県合同輸血療法委員会の開催
③輸血検査講習会

- 主体：①医療機関
②岡山県合同輸血療法委員会
③岡山県赤十字血液センター

時期：年間

3 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、県及び日本赤十字社が策定した対応マニュアルに基づき、早急に所要の対策を講ずる。

アクションプラン

○血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

①赤血球製剤等の在庫水準の常時把握

方法：日本赤十字社からの情報に基づく在庫水準の把握

時期：年間

主体：岡山県、岡山県赤十字血液センター

②「岡山県における血液製剤の在庫量に係る警戒情報等の対応」に基づく、在庫不足への対応

対応：他県との在庫調整及び注意報・警報等の発令等

時期：年間

主体：岡山県、岡山県赤十字血液センター

4 災害時等における献血確保等

県及び市町村は、災害時等における献血が確保されるよう、岡山県赤十字血液センターと連携して必要とされる献血量を把握した上で、様々な広報手段を用い、需要に見合った広域的な献血の確保を行う。

県及び市町村は、災害時において、岡山県赤十字血液センター等関係者と連携し、献血により得られた血液が円滑に現場に供給されるよう措置を講ずる。

岡山県赤十字血液センターは、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、県及び市町村と連携して対応ができるよう備えることにより、災害時における献血の受入に協力する。

アクションプラン

○災害時等における献血確保等

内容：「災害時医療用血液の確保・供給マニュアル」に基づく災害時等における献血の確保及び受入体制の構築

主体：岡山県、市町村、岡山県赤十字血液センター

時期：年間

5 各種会議等の開催

次のとおり各種会議を開催する。

会議名	開催時期
市町村・保健所献血担当課長・担当者会議	平成31年1月開催予定
岡山県献血推進協議会	平成31年3月開催予定
保健所献血推進連絡会議	適 宜